

小児高次脳機能障がい者の啓発活動

1. あいさつ回り(教育委員会)
2. 特別支援学校校長会、教頭会での啓発活動
3. 大分県特別支援教育コーディネーター専門研修会(小中学校)での啓発
4. 大分県高次脳機能障害リハビリテーション講習会(年2回)の案内送付

教育委員会への啓発活動

- 大分県教育庁
特別支援教育課 生徒指導推進室
体育保健(安全対策・監理)課
教育事務所
(県内6か所の所長へパンフレットの配布)
- 市教育委員会(18か所)
- 子ども教育相談センター

小児の支援方法

《情報収集》



《評価・診断》



《学校教員との担当者会議》



《リハビリテーション》



何らかの就労に就くことが最終目標
その為に、進級や進学、就労での長いスパンで支援することが必要

情報収集

本人、家族、学校の担任教師より情報収集



- ①発症時の状況
事故の状況、意識障害の有無、
急性期医療機関からの情報など。
- ②事故前後の変化
成績、生活態度、問題行動など。
- ③学校での生活状況
友人関係、授業態度など。



評 価

- ①WISC-Ⅲ（知能）、DN-CAS（遂行機能）
- ②WMS-R（記憶）、WCST（遂行機能）、TMT（注意）
- ③公文式学力診断テスト（学力）

知能検査では問題が明らかにならない場合がある。（例えば、漢字の読み書きや分数などの計算能力）

医学的所見に加えて学習能力を説明できることで、
学校と共通言語を持つことができる。

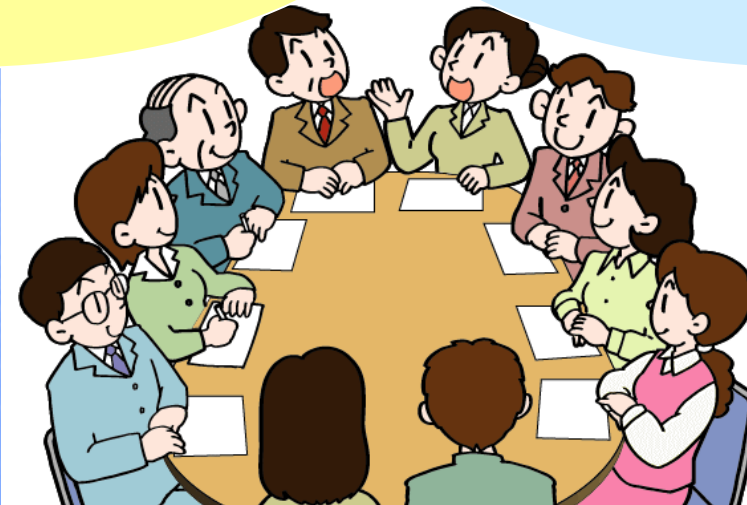
担当者会議

学校

校長 教頭 担任
学年主任 養護教諭
特別支援コーディネーター

医療機関

Dr Nrs MSW
PT OT ST CP



評価結果に加え、社会的行動障害などの障害特性を説明するとともに、学習面での現在の能力を説明する。

リハビリテーション



- 個別訓練、集団訓練

認知訓練や学習訓練により、注意集中力の向上や学習習慣の定着に努める。

- 心理療法

学習の遅れや友人関係のトラブル等イライラしたり傷つくことも少なくない。しかし、言葉で表現することが未熟であるため、第三者に伝えるのは苦手なお子さんが多い。そのため、遊戯療法等を用いて、内面にある気持ちを何らかの方法で表現させることが必要

学習訓練の様子

《小児集団学習訓練》

水曜(午後)と土曜(午前)の週2回学童期を対象とした学習訓練を行っています。

現在、学童期の高次脳機能障害者7名

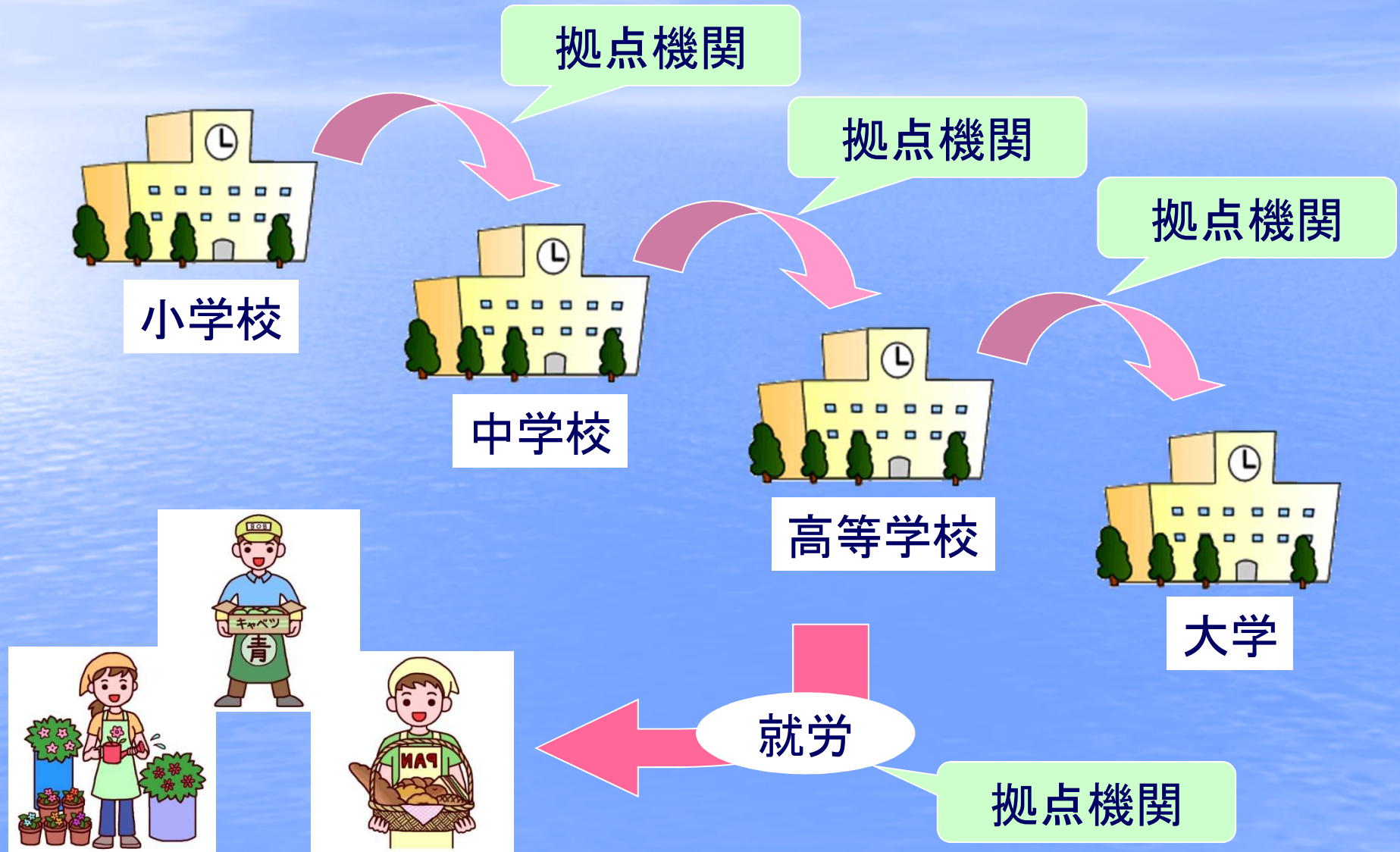
目的: 注意集中力の向上
学習習慣の定着

方法: 公文式
(算数、国語)

夏季キャンプやクリスマス会などのレクレーションも行っています!!



支援拠点機関の役割



支援拠点機関の役割

拠点機関

拠点機関

拠点機関

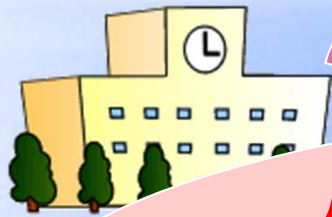
何か問題が起こった時だけでなく、
学年ごと引き継ぎ、進学時の引き継ぎが大切で、
拠点機関の役割は大きい。

高等学校

大学

就労

拠点機関



課題

- 特別支援学校だけでなく、一般の公立学校への啓発活動が急務
- 一般の公立学校で小児高次脳機能障害者の掘り起こしが必要
- 教育委員会と密に連携し、学校側とのやり取りをスムーズにしていくことが大切

まとめ

- 小児の高次脳機能障害者の社会参加は就学であり、最終の目標は就労である。
- 就学継続の阻害因子は、友人関係だけでなく、学習への適応も大きな要因となってくる。
- 教育は専門でないため、教育機関との連携が必要不可欠である。